

みどり樹

特集

人をつなぎ、夢をつなぐ
女性大学院生のネットワーク
『山大JOIN』

研究室訪問 / 農学部 食料生命環境学科

“変化”の最前線・東北で
生態系の理解を目指す。



Spring
2024

vol. **85**



座談会

人をつなぎ、夢をつなぐ

女性大学院生のネットワーク『山大JOIN』

About | 山大JOINとは？

「山大 JOIN」とは、山形大学女性大学院生ネットワークの略称です。女性大学院生の仲間・先輩・後輩、そして夢へと「つなぐ (JOIN)」という意味が込められています。研究者を目指す女性大学院生のネットワークを学内につくり、キャリア形成を支援するとともに、女性研究者の裾野拡大を目的として、平成30年度に山形大学男女共同参画推進室(現ダイバーシティ推進室)のもとでスタートしました。

文系・理系を問わず、山形大学に在学する女性大学院生であれば誰でも登録することができます。現在 15 名が登録しており、裾野拡大事業として、地域の小中高等学校における進路学習・探究学習等への協力、自主研修の企画・運営、交流会、情報発信等を行っています。

山大JOINの
WEBサイトは
こちら！



Activities | 主な活動内容

- 裾野拡大事業(小中高校生向け事業)、出前講座(進路学習・探究学習含む)への参加、企画及び実施
- 各学部開催の裾野拡大事業への参加、企画及び実施
- 男女共同参画及びダイバーシティ関連事業(意識醸成セミナー、シンポジウム、パネル展示、その他の各種セミナー等)への参加、出展及び運営支援
- 女性研究者による講演会や座談会の企画及び開催
- 女性活躍促進企業への訪問、就職・進学セミナー等のキャリアアップを目的とする研修への参加
- 交流会(山大 JOIN 交流会の企画・参加、大学院進学セミナーなどへの参加)
- 情報の共有・発信活動(活動報告の執筆など)

山形大学は、地域に根ざし世界を目指す大学として、多様な価値観に基づく教育・研究を推進し、男女共同参画及びダイバーシティ推進の模範となるべく様々な活動に取り組んでいます。今回取り上げるのは、その活動のひとつである「山大 JOIN」です。山大 JOIN メンバー4名が大学教員と、日々の学生生活や山大 JOIN の活動を通して感じている事、相互に寄せる期待等を本音で語り合いました。



つながりを広げる「山大JOIN」

—— みなさんが山大JOINに携わったきっかけと現在の活動を教えてください。

大木 私は指導教員から教えていただき、同じ分野の先輩が在籍していたことを知り参加しました。大学院生になってから外部とのつながりが減っていると感じていたので、いろいろな人との関わりを増やしたいと思いました。直近(2024年1~2月)では山形大学の全学生向けに「プレゼンスライドの作り方・PowerPointの使い方講座」を企画しました。

藤井 私は山大のスマホアプリ「YU Portal」のお知らせを見て、「女性大学院生同士がつながることができる場」というところに惹かれ、気軽な気持ちで参加しました。専門は違えど、それぞれの夢に向かって活動されている方の話を聞くとモチベーションが上がりますね。

柳原 山大JOINの活動に参加したのは今回が2回目です。前は都合が合わなかった山大JOINメンバーの代理で高校での女性研究者の座談会に参加したのですが、理系に進む女性の話を高校生に向け

て伝えた経験が楽しかったです。

長谷川 私は山大のwebサイトとポスターで知りました。当時はコロナ禍で人との関わりが薄れている時だったので、交流の機会を増やせたらなと思い参加しました。これまでに高校での座談会やパネルディスカッションに参加しましたが、特に高校生の探究活動でアドバイスをしたことが印象に残っています。

大森 山大JOINは、自分の所属研究室や専門分野に偏りがちな人間関係を打破し、就職、研究と子育ての両立など、女性研究者としての将来的な不安や悩みを共有・解消できる場となるのが大きなねらいの一つです。先輩との交流会はいかがでしたか？

大木 研究活動に対して手探りな面があったのですが、先輩の事例を聞くことで自分の研究に自信が持てたし、安心感も生まれました。いろいろな進路があることを知れたことも大きかったですね。

課題は、時間管理や生活との両立

—— 活動を通じた学びややりがいはいはどのところでしょうか？

柳原 高校生向けの座談会に登壇した時、ある高校生が自分の研究に興味を持ってくれたことが嬉しかったです。一方で自分の考えや思いを簡潔に伝えることの難しさも痛感しました。

長谷川 私は高校生と交流したことがとても刺激的でした。印象に残っているのは、研究課題についてアドバイスしたグループが後日、学校の代表に選ばれて外部で発表したことです。とても嬉しい気持ちになったことを覚えています。

—— 現在、院生生活で苦労していることはありますか？

藤井 私は公認心理師の国家資格取得を目指して研究活動や実習への参加をするうえで、時間管理に苦労しています。先生が忙しそうな時は、声をかけるのを躊躇してしまう時もあります。それから、専門的な職種のため大学のキャリアサポートセンターに相談してもよいものなのかと躊躇してしまいます。

松坂 専門職の就職についても、我々はいろんな角度からアドバイスができるように情報を集めています。ぜひ気軽にキャリアサポートセンターを使ってください。

柳原 私は今、大学院1年生で授業と研究に並行して取り組んでいますが、専門分野以外の授業も受講する必要があるため、時間の使い方が難しい時があります。

玉手 時間の使い方にも工夫が必要ですね。教員と学生のコミュニケーションという点では、オフィスアワーは特に設けずにチャットでやりとりしている研究室もあります。研究時間の確保については、フレックスやオンデマンドを使うという手もありますね。



米沢興譲館高等学校での講演会及び座談会



柳原 大学院の授業に関し、対面とオンラインを自由に選択できたり、集中講義などでまとめて受けることができると研究時間が確保できます。ぜひ検討していただきたいです。

大木 私は経済面で苦勞することが多いです。大学院生は、学会発表や実習、調査などで結構お金がかかります。専攻の地球科学分野は、例えば山形県やその近隣に調査のフィールドがあるなど、地域に根ざした研究ができる分野の一つであり、山形大学の強みだと思います。そういった研究分野ももっと知ってもらい、あわせて大学生や大学院生への経済的な支援が増えれば、学生が山形に定着することにもつながると思います。

玉手 今、日本では大学院生に対する経済的支援の制度化が進み、環境も良くなりつつあります。本学においても、できるだけ早く実効性を持つように進めていきますので、その時は積極的に利用してください。

夢ややりがいを仕事に

—— 今後のキャリアについてお聞かせください。



柳原 私は山形県内の企業の研究所に就職が決まっています。元々、不妊治療に関心があって、化学・バイオ工学の側面からの研究ができないかと考え、今の研究室を志望しました。受精卵の体外培養を行う「胚培養士」という仕事があるのですが、自分の研究が同じように受精卵の体外培養を行っていたので、指導教員に胚培養士として働きたいという相談をしたところ、共同研究先でもある県内の企業で働かせていただくことになりました。

大木 私は博士課程に進む予定です。その後は大学教員が国立の研究所に所属して研究に携わっていきたいと思っています。

大森 自分の研究テーマにとことんこだわって今後も続けていく柳原さん、大木さん、素晴らしいですね。

藤井 私は公認心理師資格を取得し、心理系公務員として働くことを考えています。特に関心を持っているのが子供への支援で、心理系公務員として児童相談所などで自分の専門性を活かして子供に対するサポートをしたいと考えています。そのほかに、資格を活かせる仕事として、民間の病院や児童福祉系の企業について調べているところです。

松坂 民間でも専門職を求めている企業は沢山あるので、それらを並行しながら見ていくという意味で、藤井さんの就職活動はとても理想的だと思います。

大森 キャリアモデルとして、先輩方にお話を聞く機会がありますか？

藤井 はい。山形県内の心理系の仕事場には、山大出身の心理職の方が沢山いらっしゃいます。先生がお話をする機会を設けてくださったり、研究会や勉強会へ誘ってくださるので、そういったところで将来やキャリアについて相談したり、ディスカッション等を通じて先輩方の様子から勉強させて頂いています。

つながり続ける山形大学

—— 山形大学に期待することを教えてください。

大木 総合大学であることを活かし、今よりもさらに異分野間の研究交流の機会を増やして欲しいです。年に2～3回でも、分散キャンパスから学生が

集まるような機会があり、それが山大JOINのように学生同士のつながりのきっかけになれば良いと思います。

柳原 私は日本人と留学生との関わりが少ないと感じるので、もっと開放的に話せる場所が欲しいです。

大森 留学生との交流のきっかけづくりとして、キャンパスで餅つきが行われたこともあります。昨年、大学として花笠まつりパレードへの参加が復活し、留学生にも声をかけ、事前練習から一緒に参加し交流しました。

玉手 昔、アメリカの大学で私が仕事をしていた時は、昼休みには納豆を持って行って盛り上がりました。大きなイベントだけでなく、昼休みにオープンなところで何かをするなど、楽しく気軽に交流できる機会をもっと増やしたいですね。



—— 後輩へのメッセージをお願いします。

柳原 叶えたいこと、やりたいことは積極的に口に出す方が良いと思います。私は研究室配属の時に、不妊治療に興味があることを担当教員に伝えたことで、今の研究テーマを先生が与えてくださいました。さらに就活の時には、実際に産婦人科系の仕事に就きたいと伝えたことで自分がやりたい職業に結びつけることができました。

大木 機会がないなら自分で作る。そして「これはできない」と諦めてしまう前に、自分ができることを全てやりつくしてほしいと思います。大学生になり、思った通りのことができないと嘆くよりも、何でも今後の自分の将来や研究に生かせることがあるかもしれないと、貪欲に機会や学びを得ようとするのが一番大事だと思います。

藤井 まずはやってみる。実は私

は、山大JOINの参加申し込みフォームを開いた時に30分ほど悩みました(笑)。でも、とりあえずやってみようという気持ちで参加をしたら、今こうして世界が大きく広がりとくさんの素敵な出会いがありました。

長谷川 私の場合、アルバイトに割く時間が多く、大学生らしい遊びがあまりできていなかったという思いがあります。大学時代は長いように思えてもあっという間です。もちろん勉強も大切ですが、遊べる時に遊ぶことも大事だと今になって思えます。

「まずはやってみよう」を大切に

—— 今後の抱負、目標を教えてください。

藤井 まずは公認心理師資格を取得し、先生や先輩方からのご指導のもとに、自分の専門性を高め、学んでいることをさらに深めていきたいと思っています。悩みや困難を抱えている人々をサポートするために、様々なことにチャレンジし、可能性を磨いていきたいです。

大木 私は自分が社会に対して何ができるかを常に考え続けた上で将来の進路を選んでいきたいと思っています。研究に限らず、自分自身の能力が他者に良い影響を与えることができるように挑戦していきたいです。

柳原 私は来年度の目標を「土曜日は論文を読む日」に決めました。同期よりもアウトプットが弱いと感じているので、たくさん論文を読んで得た知識をアウトプットできるように頑張ります。

長谷川 私はこれから環境が大きく変わりますが、いろいろなことに興味を持ち、やってみることがあったら迷わず進み、後悔しないように生きていきたいです。



—— 最後に先生方から激励のメッセージをお願いします。

松坂 みなさんは「やってみるということが何よりも重要である」ということを、山大JOINの活動を通して学んでいると強く感じました。その気持ちをいつまでも大事にしてください。

大森 みなさんの抱負を聞いて心強く感じています。私自身、副学長のお話をいただいた時に「辞退する」という選択肢もあったわけですが、身近な一つのロールモデルとなり、次の世代につなげていくことが大切と考え、思い切ってお受けしました。今日の皆さんのお話を聞き、次の世代が着実に育っていて、本当に嬉しく思います。失敗を恐れずに、これからも進んでください。

玉手 山形大学には将来ビジョンとして「深く考え実行する力」「挑戦する心」「他者との協働」を掲げています。この3つは、21世紀を生きるために必要不可欠な力になりますが、みなさんはまさにこれらを実践しています。そんなみなさんの言葉を聞いて、勇気付けられる思いでした。これからの活躍も期待しています。

プロフィール



玉手英利

たまためでとし●山形大学学長。東北大学大学院理学研究科修士。専門は進化生物学、生態・環境、生態遺伝学。理学部長、小白川キャンパス長を経て2020年より現職。



大森桂

おおもりかつら●山形大学副学長、ダイバーシティ推進室長。東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科単位取得満期退学。専門は食教育。2002年に山形大学専任講師として着任。その後、地域教育文化学部長を経て、2022年より現職。



松坂暢浩

まつさかのぶひろ●山形大学キャリアサポートセンター長。山形大学大学院理工学研究科ものづくり技術経営学専攻修士。専門はキャリア教育論、人的資源管理論。民間企業2社を経て2011年より現職。



大木可夏子

おおきかなこ●山形県出身。理工学研究科(理学系)博士前期課程1年。



藤井りょう

ふじいりょう●福島県出身。社会文化創造研究科修士課程1年。



柳原日向子

やはぎはらひなこ●富山県出身。理工学研究科(工学系)博士前期課程1年。



長谷川水輝

はせがわみずき●秋田県出身。農学研究科修士課程2年。ドイツライプニッツ・ハノーヴァー大学へ留学中。



ダイバーシティシンポジウムのパネリストとして参加 (Zoom)



Zoom交流会の様子

YAMADAI TOPICS

人文社会科学部

Faculty of Humanities and Social Sciences

合同ゼミ合宿で 模擬国連を実施



11月25日(土)から26日(日)にかけて、グローバル・ガバナンス論ゼミ(中村文子准教授)と国際法ゼミ(丸山政己教授)の学生が、仙台白百合女子大学の学生とともに、模擬国連会議を実施しました。模擬国連とは、学生が一国の大使として実際の国連会議をシミュレーションする活動です。

今回は、国連気候変動枠組条約締約国会議(COP28)という設定の下、気候変動対策について議論を行いました。パリ協定発効後、初めてのグローバル・ストックテイク(パリ協定の目標に向けた取組の世界全体の進捗状況を5年ごとに評価する仕組)を踏まえて、各国の削減目標をいかに引き上げていくか、化石燃料や石炭火力発電をどうするか、「損失と損害」基金をいかに軌道に乗せていくかなど、実際のCOP28でも争点になる論点を中心に交渉や調整を行い、最終的にカバー決定(全体的な決定や重要な政治的メッセージが盛り込まれた文書)を採択することができました。学生にとって、多数決ではなく「だれ一人取り残さない」意思決定の難しさや、粘り強く説得を続けることの重要性を体感する貴重な機会になりました。

地域教育文化学部

Faculty of Education, Art and Science

「第6回学びの フォーラム」を 開催しました

令和5年度「第6回学びのフォーラム」を12月3日(日)、9日(土)、17日(日)に開催しました。(主催:大学院教育実践研究科・地域教育文化学部、後援:山形県教育委員会)

今回のフォーラムでは、これまでに引き続き、「学ぶとはどういうことか」を主題に、高校生・大学生・社会人が一緒に考え、探究しました。平成27年度から高校生と大学生の合同ゼミナールを始めて、今回9回目になります。今年度は合計115名(高校生44人、大学生24人、社会人47人)の方に参加していただきました。一般参加者の中には、福島県、宮城県をはじめ、神奈川県、大阪府等、県外から多くの方々にご参加いただきました。

12月17日(日)の3回目には、テキストの著者である佐伯胖氏(東京大名誉教授)をお呼びして、「学び」と「遊び」の関係について考えました。高校生から、「『遊び』の重要性は分かりつつも、普通の学校生活ではなかなか難しい、どうしたらいいか」、という率直な悩みも投げかけられるなど、一人ひとりが根源的に、そして具体的に考えました。



理学部

Faculty of Science

ペーパータワーで アイスブレイク!



理学部では、9月28日(木)に、1・2年生を対象にしたアイスブレイクイベント「ペーパータワー」を実施しました。このイベントは、後期オリエンテーションの一環として、コミュニケーション能力をはじめ学生間の横のつながりを強化するために企画されました。各学年、5人一組の班となり、A4用紙20枚を折ったり曲げたりして、どの班が一番高く積み上げられるかを競います。参加した学生たちは自己紹介の後、どうすれば高く積み上げられるか班ごとに作戦会議を行い、いざ挑戦!1回戦の結果について分析と振り返りを行い、2回戦に臨みました。より高いタワーを作り上げるという目的達成のため、チームワークを深めていく姿が見られました。中には180センチを超す記録も…!会場は予想以上の盛り上がりとなり、最後は全体でフィードバックを行って終了しました。

理学部では、今後も学生たちの横のつながりやチームワークを強化できるイベントを企画していきます。

各学部からさまざまな話題や近況が届きました。
山形大学の多方面での活動、活躍にご注目ください。

医学部

Faculty of Medicine

医学部創立50周年並びに 看護学科設立30周年 記念式典を挙行了しました

11月24日(金)、本学部創立50周年並びに看護学科設立30周年を祝う式典を挙行了しました。

式典には本県選出の国会議員をはじめとした多くのご来賓をお招きし開催しました。

当日は、上野義之医学部長より、40周年からの10年間を中心に、東日本重粒子センターの設置と重粒子線治療の開始をはじめとした新しい医療技術や、研究や教育分野におけるこれまでの本学部の取組みと成果について紹介しました。

また、Well-being研究所の設立、YU-MAIセンター建設、50周年を記念した大講堂の整備など未来に向けた取組みも紹介しました。

最後に、「今後も新たな予想もしない課題が出てくる可能性がある。我々はこれまでの50年の経験を大切に、先人の偉業とそれを引継ぎ、これからも次世代の育成と医療の未来を切り開いていきたい。」と締めくくりました。

本学部が一丸となって教育、研究及び診療に取り組んできた活動を振り返り、現状と今後の展望を見据える機会となりました。



工学部

Faculty of Engineering

「メーカーズフェスタ 2023 de 米沢」を 開催しました



12月23日(土)、工学部にて「メーカーズフェスタ2023 de 米沢」を開催しました。

本イベントは、メタバースなどのVR技術やロボット等を活用し、地域に根ざした新しいコミュニケーション支援システムを開発する拠点として活動している山形大学認定研究グループ『ナセバース』が企画したものです。

「メーカーズフェスタ」とは、身近で新しいテクノロジーをユニークな発想で使いこなし、発明と創造が一杯で機知に富む「メーカー」が集い、発表や展示を行うもので、本イベントはその山形版となります。未来のものづくり・クリエイターである米沢市内の学生・生徒・児童が、ロボット・マイコン・電子工作・3Dプリンタ、VR・アバター・生成AI、IoT/ICT、デジタルツイン等、それぞれが自作した熱意のこもった作品を、米沢の地で自由闊達に発表展示しました。交流を通じて互いの興味を喚起し、ものづくり技術のさらなる向上と人的ネットワークの形成、新機軸の創造に資する事が期待されます。

農学部

Faculty of Agriculture

「日本酒学」 オンデマンドで開講

本学は、日本酒に関する幅広い知識を身につけてもらおうと山形県酒造組合の協力のもと、11月20日(月)から「日本酒学」をオンデマンドで開講しました。

山形県の高等教育機関による単位互換包括協定に基づき、本学の学生のほか、大学コンソーシアムやまがた加盟機関の学生も受講しました。

講義は、11月20日(月)から1月15日(月)までの全8回にわたり、県産酒の現況や酒米、麹菌や酵母のはたらき、健康と飲酒に関することなど、日本酒に関する幅広い分野を酒造関係者および各当コンソーシアム加盟機関の教員が担当。週1回のペースで配信され、履修者は受講後にレポートを提出し、在籍する大学で単位を取得します。

11月9日(木)に農学部で行われた記者懇談会で村山学部長は、「今や世界に羽ばたく『日本酒』の教養を身につけることは、今後異文化との接触が高まっていく中で大事であると同時に、山形の良さ・日本酒の良さを知ってもらう機会になれば嬉しい」と期待を寄せました。将来的にはワイン学や高学年を対象としたテイastingなども視野に検討していきたいとしています。



Hello!

研究室 訪問

金峰山にて

先生が手にしているのはマダニを採取するための道具。切った白い布を棒に付け、下草や地表に接触させながら歩いてマダニを付着させる。

“変化”の最前線・東北で マダニ・鳥類・哺乳類から研究を展開。 生態系の理解を目指す。

小峰浩隆 助教(農学部 食料生命環境学科)

近年、地球温暖化や野生動物の増加にともない、感染症を媒介するマダニ類の分布拡大が世界中で問題になっている。マダニ媒介感染症の公衆衛生上のリスクを把握し対処するためには、マダニ類の分布拡大状況やそのメカニズムを理解する必要がある。しかし、実はその実態は知られていない点が多い。生態学や環境学を通じ、人間社会と野生動物の関係性について研究する小峰先生は、2023年、東北の離島でそこにははずのない南方系マダニを発見。マダニを起点に気候や環境変化が及ぼす生き物への影響の最前線を捉えようとしている。

マダニの分布から見えてくる 地球環境の急激な変化

2023年の夏、東北地方の離島でこれまで発見されなかった南方系のマダニが確認された。研究成果を発表したのは、農学部の小峰浩隆助教らのチームだ。この研究成果は、これまで知られていた地域より北方に南方系マダニ類が進出しつつある事を示唆している。「地球の環境変化がかなりの速度で進んでいるようです。しかしその事に人間は気が付きにくいものです。」気が付いたら人間の生活に侵入しているマダニ。見えない環境変化がマダニの移動によって見えてくる。

マダニというと感染症のイメージが強いが、他にも多様な研究のきっかけになると小峰先生は言う。「寄生虫であるマダニは哺乳類などの宿主がいないと生きていけません。しかも成長段階によって宿主を変えていきます。ということは、一種のマダニがいる背景には、複数の宿主の存在が考えられます。マダニは階層性を持って物事を見るひとつの糸口となるのです。」小峰先生にとってマダニの研究は、どこをとっても興味が尽きない。

変化の最前線“東北”で マダニを起点に研究を推進

物心付いた頃から生き物が大好きだったという小峰先生。とくに好きだったのが「タカ」、象徴的なその姿に心奪われた。「生き物を観察していると、今の姿になったのにはどんな背景があるのだろうか？ 他の生き物とはどういう関係にあるのだろうか？ 人間との関係はどういったものなのか？ など、身近な疑問がどんどん湧いてきました。」

「好き」を追求し、大学は東京農工大学に進学。学部・修士・博士を通し「固有種が多い島では、進化的背景が面白い生き物が多い」という理由から、奄美大島や徳之島など南方の島を中心にフィールドワークを続けた。大学院在学中にはオーストラリアへ研究留学し、都市適応する外来生物に関する研究論文を発表した。

山形大学に着任したのは約2年半前。これまでとは異なる東北という地を拠点として活動し始めた小峰先生は、これまでにな



小峰浩隆

こみねひろたか ●助教 / 専門はライフサイエンス・生態学・環境学。東京農工大学博士課程修了後、同学特任助教、森林総合研究所特別研究員を経て2021年着任。人間社会と野生生物との双方向の影響に関する研究を行う。

い期待を感じている。「どの場所でも環境の独自性を、野生の生き物が反映しています。東北地方の今後の面白さは、この場所が環境や社会の変化の最前線に当たるということでしょう。寒い地域では気温上昇の影響が現れやすいですし、先進国の課題である人間活動の縮退という点でも、東北は最前線の地域と言えます。そういった意味で東北は、野生動物の分布の変化の最前線であり、そこに研究の意義があります。」

目下進めているのは、マダニの長距離分散のカギとなる鳥類の研究だ。「山形のある地域では日本全体で600種といわれる鳥類のうち半数以上が確認されている場所があります。内地でも種類が多く、これを研究しない手はありません。『マダニの分布拡大のドライバーとしての鳥』以外に、ほとんど知られていない希少種についても学生と一緒に研究を進めているところです。」

自分の“好き”を追求し、 やり続けられる対象を見つけよう

鶴岡キャンパスを拠点に、3年生から研究室に配属した生徒たちを指導している小峰先生。主宰する保全生態学研究室では、探究心を持ち共に研究を進める学生を募集している。「興味や探究心はもちろん重要ですが、並んで大事なのは主体性だと考えています。教員と学生という立場ではありつつも、興味や探究心を共有してお互い課題を解決し共に成長していきたいです。」

最後に山形大学の新生へメッセージを頂いた。「自分の興味を見つけ、積極的に深めていけたらおのずと面白いことが見つかり、自分自身の成長につながっていきます。『自分の興味がどこにあるのかまだわからない』と不安な方も多いと思いますが、大丈夫。自分の中で悶々とせず、友達や先生などと話していく中で、自分の考えや興味、頑張ることができる対象を整理していけるはずです。」「好き」を原動力に、小峰先生の研究はこれからも続いていく。

マダニの研究



2021年6～8月にかけて行った離島でのマダニ調査では、計9種類、145個体のマダニを採取し、5種類の南方系マダニを確認した。猟師の方々に協力を仰ぎ、イノシシ、クマ、野ネズミなどのマダニの寄生状況も調査。これまで知られていなかった宿主とマダニの関係が明らかになってきている。

オーストラリア留学



28歳の頃にオーストラリアへ研究留学へ。都市環境に対して外来種が急速に適応しつつある現状を研究論文で発表した。

研究室での活動



小峰先生の活動拠点は鶴岡キャンパス。研究室ではフィールドワークの一環として、鳥を観察し、どんな種類の鳥がどんな川や池にいるのかデータを集めるなど野生動物調査を行っている。



五十嵐有佳

いがらしゆか ●福島県出身。
2020年3月大学院理工学研究科修了。老舗酒蔵・小嶋総本店勤務。「米糴のあまさけ」の開発に携わり、環境に配慮した酒造りの推進にも尽力している。

共鳴の成果

安土桃山時代から続く米沢市の小嶋総本店(純米酒 東光 醸造元)は、その伝統を守りながらも先駆的な酒造りに取り組み注目を集めている。製造過程の二酸化炭素(CO₂)排出量実質ゼロにするなど、環境に配慮した酒造りで世界最大級のアルコール専門メディア主催のコンテストで最優秀賞を受賞。また、甘酒と野菜・果物の栄養素が一つになった甘酒スムージー「米糴のあまさけ」を発売し、話題となっている。その商品開発に携わった五十嵐有佳さんは、本学大学院理工学研究科の修了生。学生時代はバイオ化学工学を専攻し、人工骨ペーストの研究を行う傍ら起業家育成プログラムや地域の商品開発プロジェクトにも参画。多様な経験の中で職業観を見失いかけた五十嵐さんの良き相談相手になってくれたのが、個人的に参加した地域づくり講座で出会った、現在の上司で同社の若女将である小嶋千夏さんだった。

酒蔵見学に誘ってもらい、小嶋社長から酒造りとは別に発酵を生かした健康に良いノンアルコール商品の開発構想があると知らされ、健康というキーワードに惹かれて入社を決意。バイオテクノロジーで人々の豊かで健康的な生活に貢献したいと大学で研究テーマを選んだ時の思いが少し違ったカタチではあるが叶えられると考えたのだ。そして、元々は大手メーカーの研究者で子育てをしながら商品開発にも意欲的な千夏さんへの憧れも後押しした。

入社後は、事業開発室室長でもある千夏さんのもとで“アルコールが飲めない人や子どもにも安心して飲んでもらえて身体にいい甘酒スムージー”の開発を担当。試行錯誤の末にノンアルコールで砂糖・香料・着色料・保存料無添加の「米糴のあまさけ」を完成させた。新商品の販売促進のためにオンラインストアの運営・管理からSNSでの情報発信まで幅広い業務を担う五十嵐さんは、カーボン・ニュートラル化を達成した酒蔵全体の広報活動にも尽力している。「大学時代の多様な経験が業務に生かされています。バイオ化学工学から酒蔵、意外なようですが私のやりたいことはここにありました」と卒業後の進路や可能性は一方向ではないと示してくれている。



山大聖火リレー



身体にいいもの、環境にいいこと
伝統ある酒蔵の新しい挑戦の一翼を担う。

五十嵐有佳 酒蔵 株式会社小嶋総本店



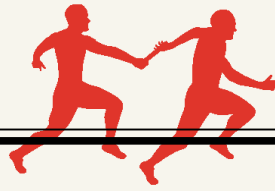
バイオ化学工学で学んだことを活かし、レシピ開発、調合、サンブル作製なども行っている。



五十嵐さんが制作に携わっている商品。製造過程でのカーボンニュートラルを実現した「東光 with green」(左)。ノンアルコール、その他添加物不使用の「米糴のあまさけ」(右)。

山形大学で学んだこと、過ごした日々、
それらはやがてさまざまな成果となって、社会に燦々と火を灯す。
現役山大学生や卒業・修了生たちが各方面で活躍する姿を追った。

Humanities and Social Sciences • Education, Art and Science •
Science • Medicine • Engineering • Agriculture



高橋怜華

たかはしれいか ●人文社会科学部3年。宮城県出身。学生サークル「まちの記憶を残したい隊」隊長。山形地域の風景や歴史、文化などの記憶を収集し、未来に残す活動を行っている。

連携の成果



まちをアーカイブする際はカメラを持ち歩き記録している。高橋さんにとっては地域全体が研究のフィールドだ。



やまがた舞子へのオール・ヒストリーの様子。歴史や文化の発見だけでなく、社会性を培う場にもなっている。

山形五堰や中心市街地での多様な活動で かけがえのない「まちの記憶」を後世に残す。

高橋怜華 人文社会科学部3年



大好きな歴史の勉強がしたいと人文社会科学部人間文化コースへの進学を決めた高橋怜華さん。しかし、1年次はコロナ禍の影響でオンライン授業が多く、思い描いていたようなキャンパスライフは送れなかった。そんな高橋さんの大学生活を一変させたのは、山形大学附属博物館と学生たちがまちの人々と一緒に収集した地域の「記憶」を展示・紹介するイベントだった。歴史と街づくりへの興味から何気なくアルバイトとして参加し、その活動内容に魅了されたのだ。「ななはく!」というそのイベントは、未来に残すべきかけがえのない地域の歴史や文化、景観を後世に伝えるために博物館が立ち上げた事業「地域の記憶『共創』アーカイブ」の一環。当初は基盤共通教育科目(小幡圭祐准教授)の授業として履修生たちが「まちの記憶を残し隊」として活動していたのみであったが、時間的な制約のある授業だけではなく学生主体でサークルも立ち上げることとなった。

いち早くサークルの結成に賛成し隊長になった高橋さんは、山形市の中心市街地の街並みを撮影したり、人々へのインタビューを行ったりしている。また、「まちの記憶を残し隊」の活動は幅広く、山形市農村整備課が開始した「山形五堰環境保全モデル事業」の第一号として「山形五堰」の一つで小白川キャンパス周辺を流れる笹堰の清掃・維持管理にも携わっている。その「山形五堰」が世界かんがい施設遺産に登録されたことをきっかけに「山形五堰」の横断幕デザインやパンフレット制作を行うなど、今後の活動にも更なる注目が集まっている。

震災などでいつ何時失われてしまうかわからない“いま”を記憶しておくことの意味、記憶を記録として残し続けることの重要性を訴える高橋さんは、米沢や鶴岡のキャンパスにもこの活動が広がることを願っている。さらに、「将来的にはこのサークルで培った経験や知識を生かして地元塩釜市でも同ような活動を展開してまちの記憶アーカイブを街づくり役に役立てたい」と抱負を語ってくれた。

※ 所属や学年は取材時のものです。

empower!

YU-SDGs Award 2023

山形大学では、玉手学長の就任以来、国連によるSDGsの枠組みを最大限に活用し、それらの活動を一層加速させるため、その姿勢を「empower!」（エンパワー：力づける、力を与える）という言葉に込めて様々な取り組みを行っています。

これらの取り組みの一環として、2021年にSDGsの達成に貢献する優れた教育・研究・学生活動・大学運営等を行っている大学の個人・団体を表彰するとともに、今後の活躍が期待できる活動を支援することを目的とした「山形大学SDGs表彰（YU-SDGs Award）」を創設しました。

本表彰は隔年で行われており、第二回とな

る今年度は、18件の応募が寄せられ、審査基準に基づく厳正な審査の結果、大賞1件、優秀賞2件、奨励賞2件、特別賞2件を決定。12月19日、小白川キャンパスにおいて「YU-SDGs Award 2023」表彰式を開催しました。

表彰式では、はじめに林田光祐副学長（SDGs推進室長）から表彰プログラム及び授賞理由について説明の後、玉手学長から受賞者へ賞状とトロフィーがそれぞれ贈呈されました。続いて大賞プロジェクトのプレゼンテーションが行われ、講評で玉手学長は、「受賞おめでとうございます。みなさんのコメント・プレゼンテーションを聞いて、関係人口の増加・ステークホルダーとの関わり合いと持続性

を高めること2点が重要だと思いました。ステークホルダーの参画を得て、はじめて大学の使命を達成できると思うので、山形大学が注力している活動を世界に広く伝えるとともに、組織として持続性のある活動となるよう取り組んでいただきたい。」などと期待を込めたメッセージを贈りました。

今後も山形大学のSDGs推進活動にぜひご注目ください。



「YU-SDGs Award 2023」受賞者



【持続可能な地域農業に向けて スマート・テロワール発 庄内産小麦プロジェクト】
中坪あゆみ（庄内産小麦プロジェクトチーム）

優秀賞 【草木塔再考～草木塔プロジェクトの波及～】阿部宇洋（草木塔プロジェクト）
【生ゴミ→資源化！ヤマダイミズアブ】佐藤智（ヤマダイミズアブ）

奨励賞 【水の光分解から水素と酸素製造システム】有馬ボシールアハンマド
【入院患者の安全を24時間365日サポートできるシステム 一院内急変対応チームのたゆまぬ活動一】
鎌水健也（中根正樹・院内急変対応ワーキンググループ）

特別賞 【「つらい思いをさせないゲノム検査」のために～山大ゲノム管理室の挑戦 2nd season～】
鈴木修平（がんゲノム管理室コアメンバー）
【模擬裁判とSDGs～社会への問題提起の先にあるものとは～】
山形大学模擬裁判実行委員会（代表者 丸田蒼）



大賞受賞 中坪あゆみ先生のコメント

この度は、YU-SDGs Award 2023大賞に選んでいただき、誠にありがとうございます。本プロジェクトは、地域で「育て、作って、食べる」をキーワードに業種も立場も異なる様々な地域内外の方々を支えられています。生産者さん、加工業者さんをはじめ、いつも食べて応援してくださっている皆さまに、この場をお借りしてこころより感謝いたします。持続可能な地域農業の実現に向けて、今後ともどうぞよろしく願っています。

YU-SDGs Empower Station

「YU-SDGs Award」の募集内容等の詳細については、WEBサイトをご覧ください。



村山地域での学会・大会・研究会等、ご相談ください

主な支援のご案内

- ◆ コンベンション開催助成金（上限額 700万円）
- ◆ アトラクション費用支援（上限額10万円）
- ◆ 貸切バス費用支援（上限額50万円）

ご希望は
開催前年度
8月末まで!

※その他、歓迎看板掲出や飲食店ガイドブックの提供、会場選定のご相談など、様々な支援体制で学会・大会・研究会等の開催をサポートします！
助成金や支援の詳細については、新年度に決定いたしますのでご連絡ください。

ご相談はお早めに！詳しくは下記までお問い合わせください！

「山形ならではの」
ユニークメニューのご紹介



コンベンション開催風景
(文翔館 議場ホールにて)



一般財団法人山形コンベンションビューロー

☎023-635-3000
✉ sales@convention.or.jp

山形 コンベンション

検索

村
山
地
域

庄内地域での学会・研究会等 開催支援しております！



開催支援
詳細

鶴岡市・酒田市・三川町・庄内町・遊佐町及び戸沢村で開催の学会等の開催支援を行っています。お気軽にご相談ください。

令和
5年度
には

宿泊参加者助成金。200名以上の場合は更に増額！
感染症対策、ハイブリッド開催経費も支援（上限100万）

開催前年度の
8月締切

- 1 歓迎看板の掲出
- 2 各種業者の紹介
- 3 観光パンフレット・ कांग्रेसバック提供
- 4 エクスカーション等の相談等もご支援いたします！

※ 支援額等の詳細は新年度に入り決定しますのでご確認ください。
※ 各種詳細はwebサイトもしくは当協会までお問い合わせください。

庄内観光コンベンション協会 TEL.0235-68-2511
《やまがた庄内観光サイト》 <https://mokkedano.net/>

庄
内
地
域

山形大学の先生方・関係者の皆様へ

上杉の城下町米沢での学会・研究会等を 開催支援します！

● 現地開催またはハイブリッド開催への
コンベンション開催助成金あります！（最大700万円助成）

● アトラクション・シャトルバス・エクスカーションに
係る経費を助成します！（上限3～5万円）

※ コンベンション開催助成金の交付条件はHPを
ご参照ください。

URL <https://yonezawa-convention.biz>



その他こんな支援サービスも
あります！

- ・ 歓迎看板の設置（米沢駅・会場）
- ・ コンベンション弁当の手配
- ・ コンベンションバッグ販売
- ・ 観光パンフレット
- ・ ビニール袋の提供
- ・ 開催相談全般



佐藤 コンベンション担当 伊藤

米
沢
市



米沢コンベンションビューロー
Yonezawa Convention Bureau

【事務局】一般社団法人米沢観光コンベンション協会

TEL 0238-21-6226 FAX 0238-22-2042

〒992-0052 山形県米沢市丸の内1-4-13 上杉神社臨泉閣内

E-mail info@yonezawa-convention.biz

米沢 コンベンション

検索

広告掲載ご希望の方は、山形大学総務部総務課秘書広報室までお問い合わせください。TEL. 023-628-4010

見つけて!感じて!
サイエンスマジック!

Be☆らぼ!

山大サイエンスカー



金曜日
(第1週)
20:00 - 20:30

月 日 ()
直 リズム
ス テーション

県内各地の中学校で「出張実験×ラジオ放送」を展開中です♪
最新の科学をわかりやすい実験を通して紹介!
生徒たちの中で流行していること、学校の特色・取り組みなども
インタビューしていきます!



栗山恭直
(山形大学教授
(理学部担当))



福田雅
(リズムステーション
アナウンサー)

県内の中学生にもっと科学の楽しさを知ってもらいたい!そんな思いを胸に、
栗山先生と福田アナウンサーが、山大サイエンスカーで出張実験にまわります。
サイエンスマジックを見つけてもらうためのスペシャルプログラムです♪
これまでの実験回数はなんと100回以上にもなります。

実験で大切にしているのは
「身の回りにある不思議に
科学で迫っていく」
というスタイル!!
今回は新庄市にある
萩野学園での実験の
様子を紹介します。

新庄市立萩野学園



ちなみに水素と酸素に火を近づけると、
大きな音を立てて爆発が起こります!!
最初は怖がっていた中学生も、途中から
もっと大きな爆発を起こそうと積極的に
いろんな方法を自分から考えていました。

実験のテーマは『電気分解』。
「水は電気による分解を行うと水素と酸素になる」…
中学校の理科で習う内容なのですが、
Be☆らぼの実験は一味違う!!
実際に水素と酸素が発生している事を
確かめるために火を近づけて
その反応を見るのがこの実験のポイント♪

爆発が起きるほど力強い水素パワー。
現在は「燃料電池」としての
研究・実用化が盛んに行われています。
人類の未来を明るく照らす「科学」。
その可能性に触れることができるのが
「Be☆らぼ!山大サイエンスカー」です!!

これからも
**Let's enjoy
science magic!**

RAMP

放送 毎週金曜日
時間 16:00 - 18:55

毎週
金曜日

ON AIR!!



松浦 彩

シャドウ 國本

気分やシチュエーションに合わせて毎週テーマに沿ったリクエストを募集!
この番組だけのオリジナルプレイリストをリスナーのみなさんと作成していきます。
リクエストはXで「#RAMP804」をつけてポストするだけ。
オンエアした楽曲は実際にプレイリストとしてSpotifyに公開されるので
いつでも好きな時に聴くことができます。
時折豪華ゲストを交えながら、あなたの日常と心に寄り添う番組をお届けしていきます。



株式会社エフエム山形

本社/山形市松山三丁目14番69号 TEL 023-625-0804
庄内支社/鶴岡市茅原町28番47号 TEL 0235-22-6800

番組ブログ更新中! 山形大学のホームページで過去の放送を聴くことができます! www.rfm.co.jp

周波数

山形 80.4MHz
鶴岡 76.9MHz
新庄 78.2MHz
米沢 77.3MHz



山形大学基金ご協力をお願い

日頃より山形大学にご支援を賜り厚く御礼を申し上げます。山形大学基金は、本学における学生支援及び教育研究支援等に資することを目的に創設いたしました。本基金の趣旨へのご理解を賜りますとともに、今後ともより一層のお力添えを賜りますよう、よろしくお願いたします。

山形大学基金では、次に掲げるご支援をお願いしております。

- 経済的修学困難学生へのご支援
- 大学公認学生サークルへのご支援
- 山形大学運営全般へのご支援
- 学部等へのご支援
- 附属学校への支援
- やまだい未来へつなぐプロジェクト
〈地域の記憶「共創」アーカイブ、医学部創立 50 周年記念事業〉

山形大学基金
ホームページ



お問合せ

山形大学基金担当 TEL 023-628-4497 E-mail : yu-kikin@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

「山形大学基金」にご寄付いただきありがとうございます。

「山形大学基金」にご寄付いただいた皆様のご芳名は、山形大学基金ホームページに掲載させていただいております。下記の URL または QR コードからご覧ください。心より御礼申し上げます。(なお、公開を希望されていない方々につきましては、掲載をしております)

https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/fund/about_fund/gratitude/



学生からの感謝の声



漕艇部へご寄付いただき、部員一同より感謝申し上げます。今後も多くの大会へ出場し、良い成績を残せるよう、努力していく所存です。

フィルハーモニーオーケストラに対し過分なる寄付をいただきまして、誠にありがとうございます。賜りました貴重なご寄付は、団で所有する楽器の修理代や、新しい楽器の購入費に活用させていただきます。



Team 道草の活動にご理解いただき、過分なる寄付を頂きましたことを部員一同心より感謝申し上げます。御支援者様からの寄付金は、今後のサークル運用資金として、より良い活動のために活用させていただきます。

他、多数のサークルにご支援いただいております。ありがとうございます。

医学部準硬式野球部に多大なるご寄付をいただきまして、誠にありがとうございました。いつもお気にかけていただき、大変恐縮いたしております。リーグ戦の費用や野球用具の購入にありがたく使用させていただきます。



米沢工業専門学校(工学部の前身)卒業生の山口祥二様から、有価証券によるご寄付をいただきました。



山口祥二様

令和 5 年 10 月山口祥二様から 7,000 万円相当の有価証券によるご寄付をいただきました。

ご寄付は、米沢キャンパスに在籍する学生の奨学金やベンチャー企業支援として活用させていただきます。

ありがとうございます。



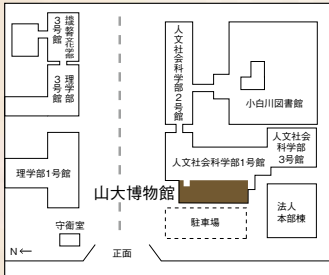
感謝状贈呈式



山大博物館

シリーズ ④

山形大学附属博物館の収蔵品をはじめ、
大学が誇る貴重な資料を紹介いたします。



世界的に有名な浮世絵師・歌川広重(1797～1858)は江戸で活躍しましたが、山形ともゆかりがあります。「湯殿山道中略図」は、山形の僧侶で絵も得意とした霞峰の絵をもとに、広重が版画の下絵を描き、江戸で製作され、出羽三山への参詣者向けのお土産として山形で販売されたものです。

山形を縦断する羽州街道から東側を描いた「東方」と西側を描いた「西方」の二つの作品がセットになっています。西方は上部に出羽三山、画面中央に山形城、その下に羽州街道と七日町が描かれています。東方は上部の右に蔵王山があり、その下に仙台と山形を結ぶ笹谷街道とつながる道が大きく描かれ、現在もある三日町のクランクが表現されています。この三日町と八日町には出羽三山に参詣する人々が山形で宿泊する宿屋が集中していました。夏の最盛期には一つの宿屋に300人以上も宿泊したといわれています。そして宿屋の隣や画面を横切る道沿いの十日町には土産物を扱う店が並んでいます。道に「本問屋」の看板が出ている店がこの版画を出版した崑崙堂です。

(学術研究院准教授 佐藤琴/学士課程基盤教育院担当)



【参考図版】
湯殿山道中略図(西方)
個人蔵

ゆどのさんどうちゅうりやくず 《湯殿山道中略図(東方)》

うたがわひろしげ かほう
歌川広重 (原画:霞峰)



大判二枚続(38×50cm)
天保年間後期

今号の
表紙

小白川キャンパスの学長室にて山大 JOIN の座談会が行われました。写真撮影にはドイツ留学中の長谷川水輝さんにも Zoom でご参加いただき、場所を越えた集合写真が実現。教員と学生の意見が飛び交う有意義な座談会となりました。

●この「みどり樹」は山形大学ホームページでもご覧になれます。

●「みどり樹」は、年2回(春号・秋号)発行する予定です。

●みどり樹WEBアンケートを実施中です。ご意見やご感想をお寄せください。

